

シライトマキバイの漁獲実態

福島県水産試験場 水産資源部

1 部門名

水産業 - 資源管理 - その他の魚種

2 担当者

千代窪孝志・吉田哲也・佐藤美智男

3 要旨

シライトマキバイは主に沖合タコかご(以下、かご)、沖合底びき網(以下、沖底)で漁獲され、水揚げ金額が1億円を超える重要な沖合性の巻き貝(エゾバイ科)である。本県では漁獲統計は「その他の貝類」に分類され、詳細な漁獲動向は不明である。よって、本種の水揚げ統計、漁獲物組成を推定し、漁獲状況を整理することを目的とした。

- (1) 漁獲状況は近年、沖底60t(20百万円)前後、かご300t前後(40~100百万円)で推移している(図1)。沖底、かごともに相双地区の漁獲量が多いが、近年いわきでは着業隻数の増加に伴い、かご漁獲量が増加している(図2)。
- (2) かご漁獲物の市場別の殻高組成をみると70~130mmまで漁獲されるが、かごの目合いにより85~110mmが主体であった。また、北部ほど大型の個体の割合が高かった(図3)。
- (3) 漁獲物の正規分布に分解した結果、雌6群、雄7群であり、雌雄ともに多くの年級群を漁獲対象としていると推察された。
- (4) 水産種苗研究所の稚貝飼育データ(1~3歳)および正規分解結果とIrano *et al.*(2003)の成長式をWalfordの定差図上で比較した結果、漁獲加入年齢は雌6~7歳、雄7歳程度で、漁獲物の主体は殻高90~110mmであるため雌8~10歳、雄7~11歳と推察された(図4)。
- (5) 他調査結果から雌雄のGSIは周年、殻高105、85mm以上で高いことから(生物学的最小形は雌80mm、雄70mm前後)、漁獲対象は再生産の主体となっている群であり、成長乱獲に陥っていない。しかし、資源が大きく減少した場合、産卵数が少ないこと、成長が遅いことから、回復が難しい種であると考えられる。
- (6) 各市場で行っている自主規制(殻高90mm以上)は徹底されていない(図3)。殻高80~90mmの範囲には再生産可能な2年級が存在するため、規制の遵守は資源保護に有効である。

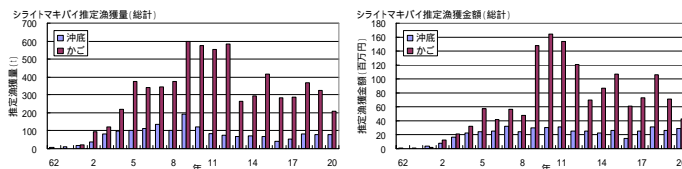


図1 漁法別の漁獲量、金額の推移

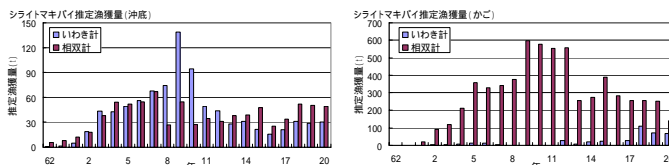


図2 漁法別、地区別の漁獲量の推移

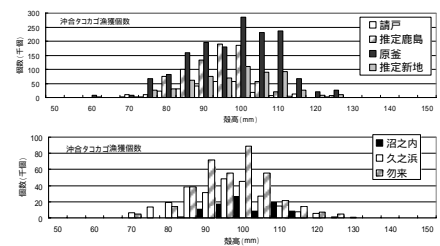


図3 市場別の殻高組成(2009年、かご)

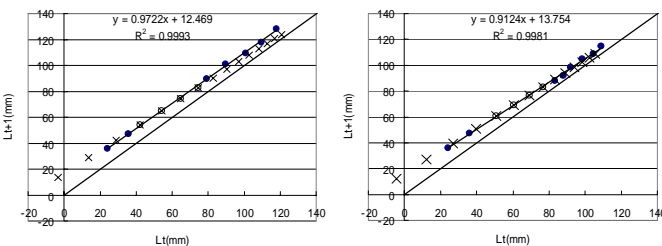


図4 Walfordの定差図(左:雌、右:雄)
 ○ 飼育データ1~3歳と分解した年級
 △ 成長式から推定した年級
 × von vertalanffyの成長式(Irano *et al.* 2004)より
 F: $L_t = 150.52(1 - e^{-0.117(t-2.18)})$
 M: $L_t = 129.99(1 - e^{-0.132(t-2.25)})$

回歸直線は ○ から推定

4 主な参考文献・資料

- (1) 吉田哲也(2002)福島県におけるシライトマキバイの漁獲実態について. 東北底魚研究 22,55-58.
- (2) 高島葉二・安藤隆二・高橋正和(2006)シライトマキバイ(*Buccinum isaotakii* KIRA)の生殖生態について. 茨城水試研報 40,35-42.
- (3) Anthony S. Irano *et al.*(2004) Age determination of *Buccinum isaotakii*(Gastropoda: Buccinidae) from the growth striae on operculum and growth under laboratory conditions. Aquaculture 242,181-195.